

株式会社 **ピエトロ**

〒810-0001 福岡市中央区天神三丁目4番5号
電話 092-716-0300（代表）



Pietro

Business Report 2005



おかげさまで25年

株式会社 **ピエトロ**

証券コード：2818





「洋麺屋ピエトロ」が福岡市の天神にオープンしたのは昭和55年12月。

たった6人でスタートした小さなレストラン。

スパゲティが茹で上がるまでの時間に出していたサラダのドレッシングが「美味しい」と評判になりました。

やがて近所の主婦がドレッシングを分けてほしいとお店に来られ、

その時ワインの空き瓶にお分けしたのが今のピエトロドレッシングのはじまりです。

こうして生まれたピエトロ物語の背景にいつもあるのは、お客様への感謝の気持ち。

初心を大切にピエトロ物語を継続させていくとともに、

これからも「美味しさ」にこだわり続けます。

1



おかげさまで25年



開業当時の「洋麺屋ピエトロ」の様子



初期のピエトロドレッシング

会社沿革

- 昭和55年 レストラン「洋麺屋ピエトロ」開業(福岡市中央区天神三丁目)
- 昭和56年 ピエトロドレッシング店頭販売開始
- 昭和58年 ピエトロドレッシング百貨店販売開始
- 昭和60年 株式会社ピエトロ設立
- 昭和61年 FC(フランチャイズ)開始(1号店・久留米店オープン)
- 昭和62年 ドレッシング通信販売スタート
- 平成 1年 アジア太平洋博覧会(よかトピア)に出店
- 平成 2年 PIETRO HAWAII, INC. 設立
ドレッシング製造工場(古賀第一工場)竣工
- 平成 4年 海外第一号店「アンジェロピエトロホノルル店」オープン
- 平成 5年 関東直営店「ピエトロズパスタ渋谷店」オープン
- 平成 8年 古賀第二工場竣工
- 平成10年 テレビCM全国ネット放送開始
バルコーネ第一号店「ピエトロ・バルコーネ長尾店」オープン
- 平成11年 PIETRO USA, INC. 設立
- 平成12年 ISO9002認証取得
- 平成13年 ファストフード店「ピエトロエミーオ西新店」オープン
本社ビル完成(福岡市中央区天神三丁目)
新店「ピエトロセントラーレ」オープン
- 平成14年 東京証券取引所市場第二部上場
株式会社ピエトログルト設立 乳製品製造開始
- 平成15年 上海ピエトロ餐飲有限公司設立



代表取締役社長 村田邦彦

Q 今期の経営環境についてお聞かせください。

A ご承知のとおり、平成16年4月から実施された消費税総額表示の影響、相次ぐ台風上陸などの天候不順、また、本年3月20日には九州北部ではマグニチュード6弱の地震に見舞われるなど、当社にとっては厳しい経営環境が続きました。

主力のドレッシングについては、量販店の売場を私も見てまわりましたが、今まで450円で売っていたドレッシングが472円というように、一瞬「うそじゃないのか」と私自身も驚きを感じたくらいですので、お客様の買い控えの影響はかなりあったと思います。また、天候不順による野菜の品薄、高騰の影響も大きかったと思います。しかし、そのようななかでレストランの味をレトルト化した新商品「パスタソース」(5種類)の売上が健闘し、その窮地を救いました。

レストランでも、台風の襲来や地震の被害により一時的に休店を余儀なくされた状況もあり、換算すると平均3日ほど休店した計算になります。

今期は確かに厳しい状況でしたが、「100億の継続」を合言葉に、社員一丸となって取り組んだ結果、前期に引き続き100億円の大台を超え、連結売上高100億43百万円を達成することができました。こうした厳しい環境、そして、その中での社員全員の頑張りと、記

Top Interview

創業の原点に立ち返り、さらなるブランドの確立を図る

憶に残る1年となりました。この経験を大事にして平成17年度も走っていきたいと思います。

Q 固定資産の減損会計を前倒しして今期は特別損失を計上したわけですが、その狙いについてお聞かせください。

A 体力のある今のうちに1年前倒しし、創業25年という年に再スタートを切るという思いもあって、固定資産の減損会計の早期適用を行いました。経常利益、営業キャッシュ・フローも前期に引き続き黒字となっておりますので、株主の皆様にはご安心いただきたいと思います。

Q 今後の商品開発についてお聞かせください。

A 食品事業の売上においては、当社のロングセラー看板商品である「ピエトロドレッシング(和風しょうゆ味)」、通称「オレンジキャップ」がまだまだ大きなウエイトを占めています。しかし、会社の方針としては、じっくり開発に取り組める今の段階で新たな商品開発を行い、このウエイトを変えていかなければいけないと考えています。

最近、ピエトロは直球ではなく、変化球で勝負すべきなのかなと感じています。25年前に生まれたピエトロのスパゲティも、それまでナポリタンやミートソース

2



しかなかった時代に、たらこや高菜といった和の素材を使用したスパゲティを次々に創作したことで、お客様から「美味しい」とか「新しい」、「おもしろい」と言われて、ここまで来れました。現代風に言えば、フュージョンとかコラボレーションといったところでしょうか。美味しさの追求は今後も当然ですが、こうした“変化球”の商品開発を進めていこうと考えています。

具体的には、R&D(リサーチ&ディベロップメント)プロジェクトとして福岡ラボと青山ラボを開設し、今までとは違った切り口で商品開発をしてまいります。もちろん、商品開発に当たっては、今まで以上に直接的に私自身も参加しており、むやみにアイテム数を増やすのではなく、ヨーグルトを使った新商品の企画とか、ノンオイルならこれといったように、そのカテゴリーの中での切り札となりうる商品を一品一品、魂を込めてつくり出していこうと思っています。また、既存の商品に関しても、もっと良くなるといったものがあればリニューアルしてまいります。

Q レストラン事業やミオミオ事業の取り組みについてお聞かせください。

A レストラン事業においては、メニュー開発に注力し、健康をテーマとした25周年メニュー“野菜でイタリアン”では、旬の野菜を美味しく、楽しく食べていただくということを提案しています。一方で、食材価格の引き下げや物流整備による原価の低減にも取り組んできました。

しかし、「ピエトロ」を客観的に見ると、まだ中途半端な位置にあると私自身思っています。ピエトロにはレストランがあり(ファストフードの)ミオミオもある、この中途半端なところをピエトロの個性としてインパクトを強くしていきたいと考えています。

今後は、メニューの開発と投入のサイクルを現在の年4回から短縮し、お客様を飽きさせないようにしたいと思っています。また、FC店につきましても、直営店での成功モデルの波及に努めるとともに、新規加盟店の開発に取り組んでいきます。

Q 本年4月に子会社を設立されましたが、その狙いについてお聞かせください。

A 平成17年4月に100%子会社である株式会社ピエトロソリューションズを設立したわけですが、食品事業での原材料の仕入、レストラン事業での食材の仕入といった購買業務を集約化して業務の効率化を図り、品質を保ちながらより安全な原材料・食材の仕入と原価低減を目指します。また将来においては、食品の研究・開発、人材教育まで拡大し、営業基盤の確立を図っていこうと思っています。

Q 創業25年を迎えての心境をお聞かせください。

A すべては今から25年前、昭和55年の年の瀬に福岡・天神で産声をあげた一軒のレストラン『洋麺屋ピエトロ』からはじまりました。

振り返ると10周年の時には、アジア太平洋博覧会(よかトピア)、ソラリア店、イムズ店のオープンがあり、この時に「我々もやれるぞ」という力をつけた年でした。あの時私は、「記憶と記録」という言葉をつくりました。たくさんの人が集まる博覧会で、より多くの人にピエトロを知ってもらおう(=記憶)、それからまた、いろいろな商業ビルの中に入って売上を上げよう(=記録)、ということが「記憶と記録」という言葉に込められています。

25年という節目の年に再度、「記憶と記録」を指標とし、社是である「ピエトロ物語の継続」に繋げていきたいと思っています。継続するということは初心を失わないことであり、この記念となる年を、全社員がいま一度、創業の原点に立ち返り、お客様満足度の向上と「ピエトロ=美味しい」というブランドの確立に努めていきたいと思っています。

Q 最後に株主の皆様へメッセージをお願いします。

A 今期は、固定資産の減損会計を前倒したことで、当期純損益は損失計上となりましたが、営業キャッシュ・フローは引き続き黒字となりましたので、期末の利益配当金につきましては、前期に比べ1円増配の1株当たり11円としました。また、次期につ



いては、普通配当を1円増配の1株当たり12円とし、創業25周年の感謝の意味も込めまして1株当たり2円を上乗せし、合計年間配当1株当たり14円を予定しています。

また、株主の皆様へピエトロをもっと知っていただく、株主懇談会を福岡と東京で開催しています。福岡・東京ともにご好評をいただいております。商品を使ったメニューの試食の場もご用意しています。いろいろなご意見を伺える機会として、私もドレッシングづくりを実演したりと、楽しみにしています。

今後も、株主の皆様におかれましては、ピエトロファンとして末永くピエトロを支えていただきますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **村田邦彦**

Pietro's Field

事業領域

当社は、創業以来「美味しいものづくり」と「楽しい食べ方の提案」を経営の基本方針として、事業活動を行っています。内食・中食・外食の分野において、お客様のニーズに応える新商品の開発や新しい店舗スタイルを提案し、新規事業にも積極的に取り組んでいます。今後、食品事業、レストラン事業及びミオミオ事業をあわせ持つ強みを活かし、日本はもとより海外でも愛される味へと発展していくために、美味しさにこだわり続けるとともに豊かな食文化創りに貢献してまいります。

食品事業

ドレッシングやソース類の製造販売を行い、百貨店や量販店、コンビニエンスストア、通信販売等において販売しています。原材料の品質からこだわり、美味しさを追求しています。



乳製品

美味しくて体に優しいヨーグルトを製造し、販売しています。原料の生乳は指定酪農家のものだけを使用し、厳選された乳酸菌を加えて約8時間をかけじっくり低温発酵させます。「濃厚だけど、すっきりとしてとろけるような滑らかな味わい」と評価されているヨーグルトです。



レストラン事業

パスタ、サラダ、ピザなどの幅広いメニューをご提供し、味・サービス・雰囲気の三拍子が揃った「スペシャルティストア」を目指しています。お客様に「美味しかった」と心から満足していただくために、1店舗1店舗丁寧な店づくりを行っています。



ミオミオ事業

昨今における女性の社会進出や生活スタイルの変化により、中食に対する需要が拡大しています。当社が「ワンコイン（500円）で食べられるパスタのファストフード」として展開しているのが「ミオミオ」です。サラダパスタを中心に、パスタの美味しさを損なわずテイクアウトすることができます。



製造

手作りの美味しさをそのままに量産化。
高品質の効率化をピエトロは実現。



創業時からピエトロの味を守り続けています。

現在当社には2つの工場があり、そこですべてのドレッシング、ソース類、ピザ生地等を生産しています。生産工場というと、オートメーション化され、機械がそのほとんどの工程を行っているイメージがありますが、ピエトロの工場では驚くほど多くのスタッフが働いています。その理由は、高品質で手づくり感のある美味しいものを、お客様に食べていただきたいという当社の企業理念から来ています。

ドレッシングの製造においては、産地と品種を限定した新鮮な玉ねぎを1個ずつ下ごしらえし、創業当初から変わらない小ロット仕込で美味しさを維持しています。また鮮度保持のために原材料の仕込から出荷までの時間を短くしており、生タイプドレッシング独特のまろやかな風味が落ちないようにしています。

時を経ても変わらないピエトロの味は、生産量が増えた今日でも、多くの人の手によっていつまでも守られ続けます。

Factory ピエトロの食材と味をまかなう、2つの大きな厨房。

古賀第一工場

ドレッシングやソース類の生産拠点です。ピエトロドレッシング和風しょうゆ味・ライトタイプ・ごま・クリーミー・ノンオイル3種・たまねぎフレンチ・黒ごまシーザー等を製造しています。



古賀第二工場

レストランやミオミオの業務用食材を一括して調理・加工するセントラルキッチンです。

スパドレやパスタソース等を製造する他、ピエトロオリジナルの六角ピザの生地もつくり、直営店やFC店へ配送しています。



価格はすべてメーカー希望小売価格(税込)です。(平成17年6月現在)

●ピエトロドレッシング 賞味期限3ヶ月



ピエトロドレッシングW 600ml ¥945
ピエトロドレッシング 280ml ¥472
ライトタイプ 280ml ¥472
たまねぎフレンチ 180ml ¥378
黒ごまシーザー 180ml ¥378
ごま 180ml ¥378
うめ 180ml ¥378
しょうが 180ml ¥378
クリーミー 180ml ¥315
プチドレ 16ml×5 ¥231

●ノンオイル 賞味期限3ヶ月



各種180ml ¥336
かり風味
バルサミコしょうゆ
かんきつ風味

●スパドレ(簡単パスタソース) 賞味期限3ヶ月



各種180ml ¥378
ベベロンチーノ
ごま醤油ガーリック
たっぶりトマト
ジェノベーゼ
たらこマヨネーズ

●オイル&ソース



各種180ml ¥378
ガーリックオイル 340ml ¥577
とんかつ・野菜ソース 160ml ¥367
辛味ソース 150ml ¥367
賞味期限6ヶ月
賞味期限6ヶ月
賞味期限1年

●パスタソース 賞味期限1年



各種130g(1人前) ¥367
ボロネーゼ
たっぶりトマトのボモドーロ
カルボナーラ

●ピエトロスープ 賞味期限9ヶ月



各種 ¥210
コーンチャウダー
ミネストローネトマト
きのこ
牛バラと野菜
コンソメミルフィーユ

●ピエトロヨーグルト 賞味期限2週間



飲むタイプ(微糖) 130ml ¥136
食べるタイプ(微糖) 120g ¥136
飲むタイプ(無糖) 900ml ¥945
食べるタイプ(無糖) 450g ¥472

●コーヒー&水



ピエトロが日本でいちばん好きな水
ビエトロコーヒー 1袋50g ¥189
ビエトロ水 500mlボトル 1ケース20本 ¥3,360
2リットルボトル 1ケース6本 ¥2,835

●ピエトロスパゲティ 賞味期限3年



1.6mm
500g ¥441
300g ¥273

Products

●ピエトロドレッシングのポーションサイズを発売。

近年お客様からのご要望が多く、そこから生まれた商品のひとつに、ポーション（1人前）サイズのドレッシングがあります。

お客様それぞれの食に合わせて、ピエトロドレッシングを身近に使っていただきたいと思い、開発した商品です。

コンビニエンスストアのサラダ用としては、使い切りサイズ（30ml）のピエトロドレッシング（和風しょうゆ味、ごま味）を一部の店舗にて発売しており、大変ご好評をいただいています。

そして今春、ひとり暮らしの方やお弁当にも便利なミニサイズのドレッシング「プチドレ（16ml×5個入）」を新たに発売いたしました。



ピエトロドレッシングの味・風味を少量でも、そのままお楽しみいただけるようになっています。また、ポーションサイズは使い切りタイプのため、今までご購入求めにならなかったお客様の需要も開拓しています。



●ピエトロヨーグルトに「食べるタイプ120g」が新登場。飲むタイプもラベルデザインを一新。

“原材料と製法へのこだわり”から、発売以来多くのお客様のご支持をいただいていますピエトロヨーグルトに、個食サイズの「食べるタイプ」が、この度新しく仲間入りしました。それに伴い、すべての種類のラベルデザインも一新。より多くの方にピエトロヨーグルトの美味しさをお届けしたいと考えています。

平成17年5月からは、九州内の一部のコンビニエンスストアにてピエトロヨーグルトの「食べるタイプ120g」と「飲むタイプ130ml」が発売開始されました。



Restaurant

●レストランを中国・上海虹橋（ホンチャオ）地区に出店。



ピエトロ 虹橋店
上海市長寧区仙霞路299号
遠東ビル1階
TEL.86-21-6235-1747



当社の子会社「上海ピエトロ餐飲有限公司」が、中国・上海の虹橋地区に平成16年10月レストランを出店いたしました。

同地区はオフィス街で、日本人居住率も高い場所です。ビジネスマン層や現地の日本人客の利用を見込んでおり、中国でも日本と同じメニューで、ピエトロ流の「食文化の提案」をしています。

パスタとピザを比較すると、ピザの方が圧倒的に認知度は高い中国ですが、パスタに対する興味も徐々に高まっています。また、生野菜を食べる習慣が定着していない現地の若いお客様もサラダをよく召し上

がっており、ピエトロドレッシングにも興味を持っていたり様子です。

国内のレストランと同様、「美味しい」という口コミから客足を伸ばしていきたいと考えています。

●創業25周年の記念メニューを投入。美味しく、楽しく、ヘルシーな食べ方を提案。

当社レストランでは創業25周年を記念して、“野菜でイタリアン”をテーマにおき、メニューを開発しています。

「野菜嫌いの子供がピエトロドレッシングをかけると野菜を食べられるようになった」というお話をお客様からよく頂戴いたします。このお言葉を大事にして、旬の野菜を美味しく、楽しく、ヘルシーに召し上がっていただきたいと考え、当社ならではのベジメニューを1ヶ月毎に投入し、提案しています。



「蒸したキャベツの2色ソーススパゲティ」



「焼き筍のペペロンチーノ」



「冷たいカッペリーニ、トマトのケッカソース」



「かぶと大根の冷製パスタ」

Review of Operations

営業の概況

経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の回復や雇用環境の改善により、景気回復基調で推移いたしました。

食品業界におきましては、消費税総額表示の影響もあり、一時的に消費が低迷するとともに、販売価格の下落により、厳しい経営環境で推移いたしました。

また、外食業界におきましては、企業間競争の激化による既存店の減収に加え、相次ぐ台風上陸などの天候不順により、激しい変動がみられました。

このような状況の中で、当社グループ(当社及び連結子会社)は、食品事業におきましてはエリア別戦略の強化を図り、またレストラン事業及びミオミオ事業におきましては積極的なメニュー開発及びスクラップ&ビルドに取り組んでまいりました。

しかしながら、厳しい経営環境の影響を受け、当連結会計年度の売上高は前期比横ばいの100億43百万円、営業利益は6億22百万円(前期比11.6%減)、経常利益は5億40百万円(前期比11.7%減)にとどまりました。また、固定資産減損会計の早期適用による減損損失などの特別損失20億33百万円を計上した結果、当期純損益は9億53百万円の損失となりました。

次期の見通し

今後の見通しといたしましては、引き続き景気は緩やかな回復基調にあるものと予想されるものの、原油価格の高騰等もあり、先行きは不透明な状況で推移するものと思われます。

このような状況下におきまして、当社グループは創業の原点に立ち返り、経営の基本方針に基づく事業運営にさらに積極的に取り組み、平成18年3月期の連結業績予想につきましては、売上高102億円(前期比1.6%増)、経常利益6億70百万円(前期比23.9%増)、当期純利益2億50百万円を見込んでおります。



Business Segment Overview

セグメント別の概況

●食品事業

食品事業におきましては、前期に引き続き大規模商圏の首都圏と関西圏の販売を強化するとともに、コンビニエンスストア向けのポーション(1人前)タイプドレッシングの販売にも注力するなど、売上高の拡大に努めてまいりました。商品開発面では、平成16年9月にパスタソース5種類及びスパドレ「ペペロンチーノ」を新発売し、売上が好調に推移してまいりました。また、乳製品につきましては、販売チャネルの拡大とブランドイメージの浸透に努めてまいりました。さらに、新しい試みとして、通信販売で季節・数量限定の「フルーツコンポート」を発売いたしました。

しかしながら、主力のドレッシングの販売が、消費税総額表示の影響に加え、相次ぐ台風上陸による野菜の品薄・高騰の影響を大きく受け、売上高は48億2百万円(前期比0.7%増)、営業利益は16億42百万円(前期比5.9%減)にとどまりました。

●レストラン事業

レストラン事業におきましては、立地やお客層層に合わせた味・サービス・雰囲気のと拍子が揃った店づくりに努めるとともに、メニュー開発にも注力し、季節野菜の新しい食べ方などを提案してまいりました。また、平成16年12月9日に創業25年目を迎えたのを機に、お客様への感謝の気持ちを込めた「25周年スクラッチキャンペーン」を実施しました結果、好評を博し、平成17年3月には客数・売上減に歯止めがかかり、次期につながる成果を収めることができました。一方、食材価格の引き下げや物流整備による原価の低減にも取り組んでまいりました。店舗展開では、直営店において、平成16年4月にミオミオ事業の「ヨドバシ博多店」(福岡市博多区)をレストランに業態を変更し、また、平成16年5月には東京地区レストランの広告塔の役割を果たしておりました「コレテ・アクアシティお台場店」(東京都港区)を閉店する一方、「ダイヤモンドシティかすや店」(福岡県糟屋郡)を平成16年6月に新規出店いたしました。

しかしながら、競争激化による既存店の減収に加え、平成16年8月から10月にかけての相次ぐ台風上陸など天候不順の影響を受け、売上高は43億79百万円(前期比2.0%減)、営業利益は30百万円(前期比58.6%減)にとどまりました。なお、海外のレストラン事業として、上海の子会社(上海ピエトロ餐飲有限公司)におきまして、平成16年10月に2号店を新規開店する一方で、上海進出の所期の目的を果たした1号店を平成17年3月に閉店いたしました。

●ミオミオ事業

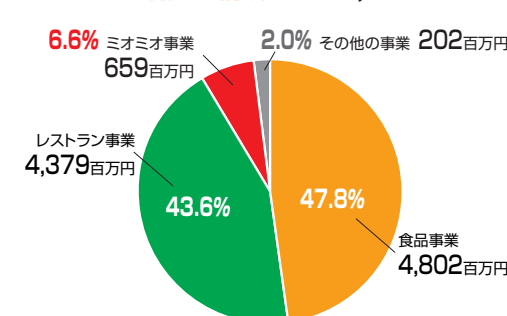
ミオミオ事業におきましては、定番メニューのサラダパスタの充実に加え、冬季の対策として「フォー」を投入するなど季節フェアメニューの開発強化を図り、売上高の拡大に努めてまいりました。店舗展開では、直営4店舗「ダイヤモンドシティ粕屋店」(福岡県糟屋郡)、「池袋サンシャインシティアルタ店」(東京都豊島区)、「丸の内オアゾ店」(東京都千代田区)、「府中フォーリス店」(東京都府中市)の新規出店を行う一方、「代々木店」(東京都渋谷区)及び「自由が丘店」(東京都目黒区)の2店舗を閉店いたしました。

この結果、売上高は6億59百万円(前期比11.7%増)となりましたが、出店コスト増等により、営業損益は2億92百万円の損失となりました。

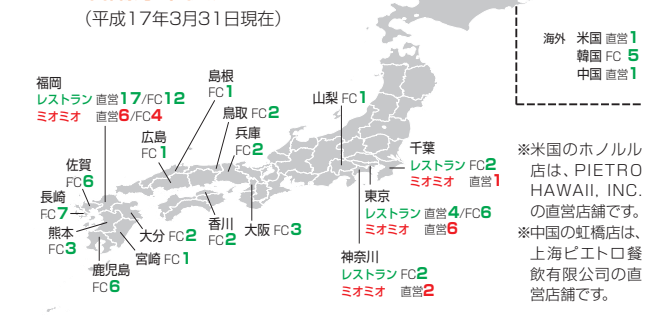
●その他の事業

その他の事業におきましては、本社ビル等の賃貸事業の入居率の高まりにより、売上高は2億2百万円(前期比6.4%増)、営業利益は1億4百万円(前期比21.3%増)となりました。

●セグメント別売上構成比 10,043百万円



●店舗分布状況 (平成17年3月31日現在)



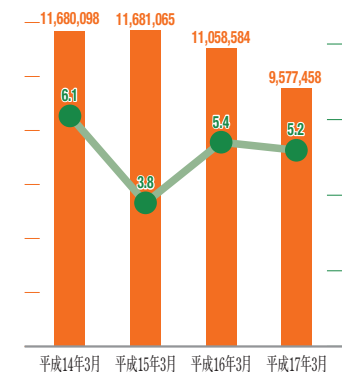
Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

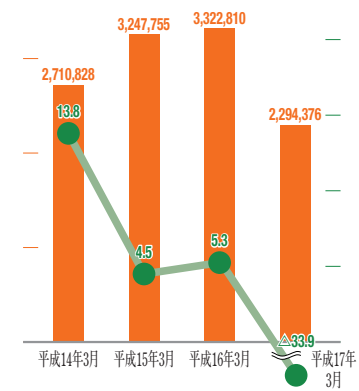
Consolidated Balance Sheets

連結貸借対照表

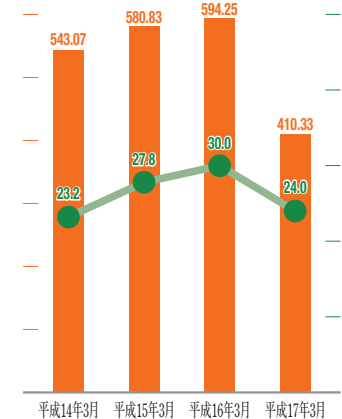
■ 総資産 (千円)
● ROA (%)



■ 株主資本 (千円)
● ROE (%)



■ 一株当たり株主資本 (円)
● 株主資本比率 (%)

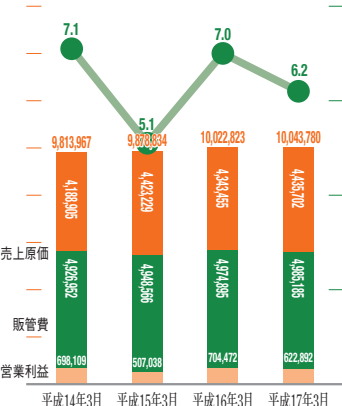


科 目	第19期 (平成16年3月31日現在)	第20期 (平成17年3月31日現在)
流動資産	2,489,148	2,703,419
現金及び預金	1,093,418	1,088,644
預け金	58,513	67,637
売掛金	959,278	1,015,840
有価証券	1,443	—
たな卸資産	150,563	142,005
繰延税金資産	66,054	51,545
その他	172,275	348,431
貸倒引当金	△12,399	△10,686
固定資産	8,565,937	6,874,039
有形固定資産	6,525,607	4,666,805
建物及び構築物	2,851,134	2,356,591
土地	3,253,918	2,030,435
その他	420,554	279,779
無形固定資産	146,102	11,493
投資その他の資産	1,894,227	2,195,739
差入敷金保証金	1,098,061	968,493
その他	800,978	1,337,621
貸倒引当金	△4,812	△110,375
繰延資産	3,498	—
新株発行費	3,498	—
資産合計	11,058,584	9,577,458
流動負債	3,457,696	3,339,906
買掛金	486,421	530,452
短期借入金	1,319,254	1,350,000
1年以内返済予定長期借入金	810,832	775,932
未払金	335,707	386,189
未払法人税等	162,837	12,617
賞与引当金	69,819	72,583
その他	272,824	212,130
固定負債	4,277,680	3,943,100
長期借入金	3,466,697	3,134,865
長期末払金	373,791	241,770
預り敷金	130,472	124,418
退職給付引当金	46,133	44,176
役員退職慰労引当金	260,587	259,364
その他	—	138,505
負債合計	7,735,377	7,283,006
少数株主持分	395	75
資本金	474,400	474,400
資本剰余金	516,922	516,922
利益剰余金	2,425,036	1,387,084
その他有価証券評価差額金	8,366	9,320
為替換算調整勘定	△101,843	△93,241
自己株式	△72	△109
資本合計	3,322,810	2,294,376
負債、少数株主持分及び資本合計	11,058,584	9,577,458

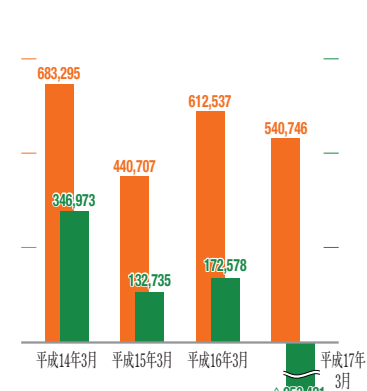
Consolidated Statements of Income

連結損益計算書

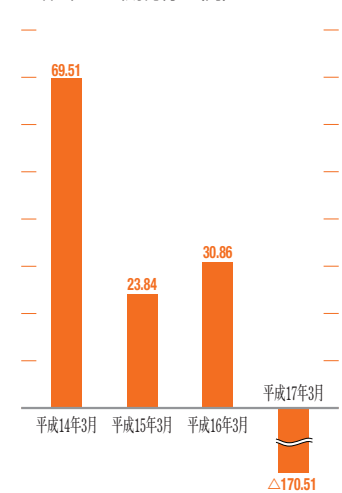
■ 売上高 (千円)
● 営業利益率 (%)



■ 経常利益 (千円)
■ 当期純利益 (千円)



■ 一株当たり当期純利益 (円)



科 目	第19期 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)	第20期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
売上高	10,022,823	10,043,780
売上原価	4,343,455	4,435,702
売上総利益	5,679,368	5,608,078
販売費及び一般管理費	4,974,895	4,985,185
営業利益	704,472	622,892
営業外収益	8,789	9,783
受取利息	2,096	454
受取配当金	237	328
その他	6,456	9,001
営業外費用	100,724	91,930
支払利息	76,020	67,213
シンジケートローン手数料	—	14,299
その他	24,703	10,417
経常利益	612,537	540,746
特別利益	5,495	13,038
前期損益修正益	4,050	—
固定資産売却益	—	9,858
投資有価証券償還益	1,445	—
投資有価証券売却益	—	3,180
特別損失	181,406	2,033,302
固定資産売却損	48,353	26,676
固定資産除却損	74,540	193,231
投資有価証券評価損	2,563	—
会員権評価損	4,250	6,600
減損損失	—	1,611,089
貸倒引当金繰入額	9,208	108,847
その他	42,492	86,856
税金等調整前当期純利益又は純損失 (△)	436,627	△1,479,517
法人税、住民税及び事業税	274,545	4,180
過年度法人税等	31,634	—
法人税等調整額	△41,787	△529,325
少数株主損失	343	951
当期純利益又は純損失 (△)	172,578	△953,421

Consolidated
Financial Statements

連結財務諸表

Consolidated Statements of Shareholders' Equity

連結剰余金計算書

科 目	(単位：千円)	
	第19期 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)	第20期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
[資本剰余金の部]		
資本剰余金期首残高	516,922	516,922
資本剰余金期末残高	516,922	516,922
[利益剰余金の部]		
利益剰余金期首残高	2,308,373	2,425,036
利益剰余金増加高	172,578	—
当期純利益	172,578	—
利益剰余金減少高	55,915	1,037,952
当期純損失	—	953,421
配当金	55,915	55,915
新規連結に伴う減少高	—	28,615
利益剰余金期末残高	2,425,036	1,387,084

Consolidated Statements of Cash Flows

連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	(単位：千円)	
	第19期 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)	第20期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	894,619	631,788
投資活動によるキャッシュ・フロー	△364,355	△75,127
財務活動によるキャッシュ・フロー	△864,881	△564,145
現金及び現金同等物に係る換算差額(減少：△)	△11,504	3,939
現金及び現金同等物の増減額(減少：△)	△346,121	△3,545
現金及び現金同等物の期首残高	1,445,553	1,099,432
新規連結による現金及び現金同等物の増加高	—	7,895
現金及び現金同等物の期末残高	1,099,432	1,103,782



Non-Consolidated
Financial Statements

単体財務諸表

Non-Consolidated Balance Sheets

単体貸借対照表

科 目	(単位：千円)	
	第19期 (平成16年3月31日現在)	第20期 (平成17年3月31日現在)
流動資産	2,383,252	2,548,415
固定資産	8,865,795	7,509,339
繰延資産	3,498	—
資産合計	11,252,547	10,057,755
流動負債	3,340,150	3,309,612
固定負債	4,057,276	3,933,631
負債合計	7,397,426	7,243,244
資本金	474,400	474,400
資本剰余金	516,922	516,922
利益剰余金	2,855,503	1,813,977
その他有価証券評価差額金	8,366	9,320
自己株式	△72	△109
資本合計	3,855,120	2,814,510
負債・資本合計	11,252,547	10,057,755

Non-Consolidated Statements of Income

単体損益計算書

科 目	(単位：千円)	
	第19期 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)	第20期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
売上高	9,819,720	9,816,373
売上原価	4,325,869	4,406,589
売上総利益	5,493,851	5,409,784
販売費及び一般管理費	4,684,209	4,636,288
営業利益	809,641	773,495
営業外収益	8,226	9,981
営業外費用	95,897	85,379
経常利益	721,971	698,097
特別利益	5,495	13,038
特別損失	146,677	2,232,098
税引前当期純利益又は純損失(△)	580,788	△1,520,962
法人税、住民税及び事業税	274,365	4,000
過年度法人税等	31,634	—
法人税等調整額	△19,378	△539,351
当期純利益又は純損失(△)	294,166	△985,610
前期繰越利益	63,444	105,082
当期末処分利益又は未処理損失(△)	357,611	△880,528

Statements of Appropriation of Retained Earning

利益処分

科 目	(単位：千円)	
	第19期	第20期
当期末処分利益又は未処理損失(△)	357,611	△880,528
任意積立金取崩額	3,386	1,102,355
合計	360,997	221,827
利益処分額	255,915	61,506
配当金	55,915	61,506
任意積立金	200,000	—
次期繰越利益	105,082	160,320

会社概要 (平成17年3月31日現在)

会社名	株式会社ピエトロ
英訳名	PIETRO Co., Ltd.
創業	昭和55年12月9日
設立	昭和60年7月29日
資本金	4億7,440万円
本社所在地	〒810-0001 福岡市中央区天神三丁目4番5号 電話 092-716-0300
代表者	代表取締役社長 村田 邦彦
従業員数	正社員212名 臨時従業員(7.5時間換算)468名
事業内容	食品事業 レストラン事業 ミオミオ事業 その他の事業（本社ビル等の賃貸）

支社・営業所	東京支社・福岡営業所・大阪営業所・ 広島営業所・札幌出張所・名古屋出張所
工場	古賀第一工場・古賀第二工場
店舗	レストラン 直営店23店舗 FC店64店舗 ミオミオ 直営店15店舗 FC店 4店舗

役員 (平成17年6月24日現在)

代表取締役社長	村田 邦彦	取締役(社外)	上野 光典
取締役(製造部長)	北原 幸徳	取締役(社外)	臼杵 昭子
取締役	平塚 利典	取締役(社外)	藤野 軍次
取締役(名義相談役)	西川 啓子	常勤監査役	西川 伸司
		監査役	江頭 紀夫
		監査役	田中 良明

執行役員 食品事業部 副本部長	小川 勝三
執行役員 レストラン事業部長	渡邊 武一郎
執行役員 社長室長	高橋 泰行
執行役員 総務部長	大坪 康浩
執行役員 経理部長	山本 健一

株主メモ

決算期	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
定時株主総会	毎年6月
株主確定基準日	3月31日 その他必要がある時には、あらかじめ公告いたします。
株式名義書換	●名義書換代理人 中央三井信託銀行株式会社 東京都港区芝三丁目33番1号 ●同事務取扱所 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (お問合わせ先) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 証券代行事務センター 郵便物送付先) 電話 03-3323-7111(代表) ●同取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

公告掲載新聞	日本経済新聞
貸借対照表及び 損益計算書掲載の ホームページアドレス	http://www.pietro.co.jp/

(お知らせ) 住所変更、名義書換請求、単元未満株式の買取請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル及びインターネットのホームページで24時間受付しております。

●フリーダイヤル 0120-87-2031(自動応答)

●ホームページアドレス http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

なお、証券保管振替機構をご利用の方は、お取引のある証券会社にお申し出ください。

株主優待のご案内

優待内容	次の基準の保有株式数に応じて年1回贈呈いたします。 (1) 100株以上～500株未満保有株主様 1,000円相当の当社製品 (2) 500株以上～1,000株未満保有株主様 2,000円相当の当社製品 (3) 1,000株以上保有株主様 3,000円相当の当社製品
対象	毎年3月31日現在の当社株主名簿及び実質株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有する株主様。
贈呈時期	毎年6月中に株主名簿に記載された住所へ発送いたします。

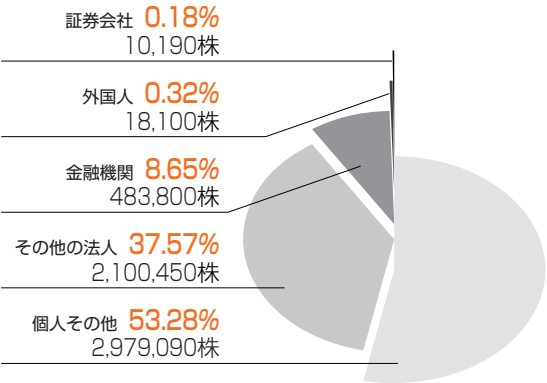
株式状況

会社が発行する株式の総数	18,000,000株
発行済株式総数	5,591,630株
株主数	7,895名

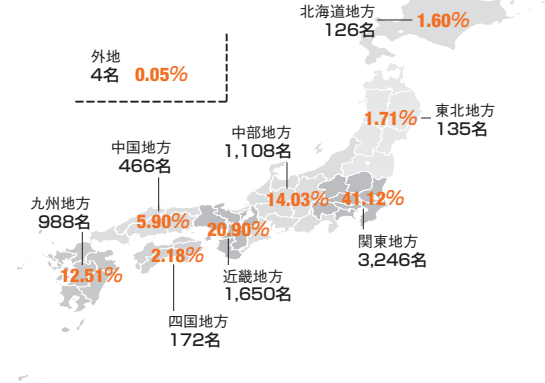
大株主

大株主名	持株数(株)	出資比率(%)
株式会社ムラタ	1,944,250	34.77
村田邦彦	931,850	16.66
西川啓子	374,580	6.69
株式会社西日本シティ銀行	203,000	3.63
株式会社福岡銀行	70,000	1.25

所有者別株式分布状況



地域別株主分布状況



ホームページもご覧ください

財務情報をはじめ、商品情報、オンラインショッピングなど
様々なコンテンツをご用意しています。ぜひご覧ください。

http://www.pietro.co.jp/

